

伊賀市文化振興プラン前期実行計画に基づくヒアリング概要

実施日 令和4年12月23日（金）
場 所 伊賀市本庁舎 201 会議室
テーマ 「誰もが文化に親しむ」
対象課 障がい福祉課、地域包括支援センター、介護高齢福祉課、生活支援課、
上野総合市民病院病院総務課

内 容

1.障がい福祉課

- ・障害者週間において、市役所1階市民スペース、コミュニティバスや伊賀鉄道の車両内、人権政策課主催の「ひゅーまんフェスタ」で当事者の作品等を展示している。障がいに関する啓発活動を行なうことにより、理解と認識を深めることを目的としているため、事業カードを作成していない。
- ・今年度初めて福祉施設でアウトリーチ事業を行っていただいたところ、良かったという感想を聞いた。アウトリーチはアートとの距離を縮め、バリアを低くするには有効と思う。

《文化振興課、文化都市協会から》

- ・障がい者を取り巻く文化行事については、文化芸術に触れる（鑑賞）場を提供するだけでなく、障がい者による創作品の発表の場の確保や、作品の評価や販売支援等が求められている。文化振興課、障がい福祉課および障がい者施設、社会福祉協議会など関係者が集まり、「何をどのようにすれば良いか」を話し合う場を設けたい。

2. 地域包括支援センター

- ・文化的側面のある事業が具体的にわからなかったため、事業カードの提出がなかった。
- ・地域包括支援センターでは、高齢者の相談を受け、課題を解決するのが仕事である。日常生活にひっ迫した人は、文化芸術に触れる余裕のない人が多い。家庭内の虐待も増加している。
- ・認知症カフェという催しを定期的で開催している。参加人数が多くないので、市内の他のカフェにも声をかけるなどして1ヶ所に集約して行うこともできる。カフェ参加者の希望を聞きコンサート等の実現が可能か検討したい。

《文化振興課、文化都市協会から》

- ・支援に関わる家族や職員なども対象としてコンサート等を開催することも可能。生活を立て直す段階のどこかで文化の力を活用したい。

3.上野総合市民病院病院総務課

- 1階ロビー（待合）には、伊賀・名張市内の絵画サークルが提供してくれる絵画を展示し、年1～2回入れ替えをしている。
 - コロナ禍のため、アーティストなど外部の人が院内に入り込むイベントなどは制限があり、当分できない。
- 《文化振興課、文化都市協会から》
- ギャラリー展示作品の巡回ができること、寄贈美術品を活かすことも出来る。ぶんとが展示作業や画材の提供など協力は可能。

4.介護高齢福祉課

- コロナ禍で外部の人は施設には入れなかったり、アウトリーチでコンサートをできるスペースがない施設が多かったり、本来の業務が優先でなかなかそこまでできなかったりする。市（介護保険の保険者）から事業者に事業をしてくださいとは言えない。
 - 高齢者施設では、認知症予防の一環として、音楽だけでなく、ものづくり（アート）などができたり、音楽なら昔の歌なども聴くことや、四季を感じるイベントができたりするとよいと思う。
 - コロナ禍で、コンサートなどは難しいがアートの展示は可能かもしれない。
 - 希望する施設（地域密着型サービス事業者）があれば、市（保険者）も参加している運営推進会議の中で取り上げてもらえることは、今後の可能性としてはある。
- 《文化振興課、文化都市協会から》
- ぶんとでは、福祉施設（障がい者施設や高齢者施設）でアウトリーチ事業を行った。
 - アウトリーチ事業ができるスペースがない施設の入所者にも文化芸術に触れてもらうため、文化会館のホワイエを開催場所として広いスペースを提供できるインリーチ事業として実施できる可能性はあると思う。

5.生活支援課

- 当課の業務は経済的給付や相談支援が中心で、文化に直接かかわる事業は実施していない。当課の事業の対象となる方は、経済的な困窮が理由で文化芸術に触れる経験ができなかった方も多い。
- ひきこもりの人など、すぐに就労することが難しい人にも、それぞれの得意なことや強みがある。単に支援の対象として一方的に人に支えられるだけでなく、適切な機会があれば人や地域を支える側になることもできる。このような経験の場を文化活動のなかで提供してほしい。
- 例えばぶんと主催のイベントに、スタッフの一員としてすぐに就労することが難しい人々に関わってもらい、社会との繋がりを感じ、自分が必要とされていることを感じることができる機会や場所を提供していただければありがたい。

- 生活支援課の業務は経済的給付や相談支援が中心であるが、単に経済的な給付を行うことだけでなく、相談者や利用者と繋がっていること自体が支援となる部分もあると考えている。

《文化振興課、文化都市協会から》

- 昨今の文化行政は住民福祉の向上のため、地域で全てを包みこむようなシステムのなかに文化を取り入れる仕組みを求められている。家族やケースワーカーも対象とし、心を動かせる活動をしたい。